

世界遺産 絹の道 東へ続け

中国・唐とローマ帝国をつないだ古代の交易路「シルクロード」絹の道。
その一部が2014年、「長安・天山回廊の交易路網」として世界遺産に登録された。
これに続こうと、韓国、日本へのルートの延伸「東方のシルクロード」や、
中国による「海のシルクロード」の登録を目指す動きが具体化している。

古代国家・新羅の都があった韓国・慶州で昨年12月、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の国際会議が開かれた。各国の研究者ら約150人が世界遺産の登録などについて話し合った。テーマは「東方のシルクロード」。この場合の「東方」は中国よりさらに東の韓国と日本のことだ。

シルクロード(絹の道)は、中国の長安(現在の西安)からローマを結ぶ交易路の総称。
14年には洛陽・長安から敦煌などをへて、中央アジアに至る計8700キロ、33の遺跡群が世界遺産に登録された。中国、カザフスタン、キルギスによる共同申請だった。

